

# SALVADOR

小井沼眞樹子宣教師と共に歩む会会報

代 表：松本敏之、大倉一郎  
事務局：横浜港南台教会 中沢 謙  
〒234-0054 横浜市港南区港南台 7-8-29  
Tel 045-833-5323 Fax 045-833-6616  
郵便振替口座番号：00210 - 2 - 97571

## 一粒の麦、地に落ちて

小井沼眞樹子

### はじめに

任期3年の最終年となりました。多くの皆さんの、篤いお祈りと温かなご支援を感謝しています。

さて、前号会報の中で「バイーアのユックリズム」と称して新会堂建設プロジェクトが頓挫している事情をお伝えしましたが、結局、カーニバル明けまで待っても市当局が立ち木伐採を実施しないので、残念ながらこの建設案を廃棄せざるを得なくなりました。白紙に戻して、市政府の許可を必要とせずに行える新たなプロジェクトを立ち上げるところまでこぎつけて、私の健康上に問題が生じ、4月19日から6月19日まで日本に一時帰国しておりました。滞在中の大半は医療処置と経過観察、その他の検査で過ごしましたが、幸い無事に健康回復を果たしてサルバドールに戻ることができました。

以下、帰国中4月22日に横浜港南台教会で持たれたブラジル宣教報告会の要旨などを読者の方々とも分かち合いたいと思います。

### ☆奴隷化社会への抵抗のパレード

今年2月に行われたリオのカーニバルで、特に話題に上ったのはパライゾ・デ・トゥウチというサンバチームの奴隷制をテーマとしたパレードです。



ご存知のように、ブラジルはポルトガルによる植民地支配のもと300年間に及ぶ奴隷制の歴史があり、今なお不平等と非人間化に苦しめられている大勢の人々がいます。その歴史を再現し、さらに現代の奴隷化社会を批判してサンバのリズムに乗せて歌い、踊り、演じたパライゾ・デ・トゥウチの見事なパレードを、映像を通して断片的に鑑賞しました。



新自由主義のボスは連邦大統領のたすきをかけている吸血鬼。  
→ テメル大統領批判

「わが神、わが神どうか現代の奴隷制の囚人を解放してください」という歌詞が、民衆の叫びとなってブラジル社会の底辺から沸き起こっているのを強く感じさせられるのです。

### ☆マリエリ・フランコの暗殺事件

2年ごとに行われる世界社会フォーラムが、3月11～16日にサルバドールで開催され、それと並行して神学と解放フォーラムも行われました。言葉の壁があるものの、この好機を逃すまいと、私も末席に座して世界各国からの参加者の発言に耳を傾けていました。

14日(木)には、地元サルバドールの諸教会・団体が共同して準備したパネルディスカッションが企画されていて、その朝私はその講演会場におりました。開会の時間になると、突然正面のスクリーンに一人の女性が映し出され…その横には「闘

いは続く、あなたによって、私たちによって。マリエリ・フランコはここにいる！」という言葉がありました。



これは誰だろう？このメッセージは一体何のことか？と自問しながらそこにいますと、だんだん事の真相が現れてきました。

その前夜の9時過ぎに、リオ市の黒人女性市会議員のマリエリ・フランコが何者かに襲撃され殺されたのです。享年 38 歳。運転手のアンデルソン・ゴメスも犠牲になりました。

パネラーの一人でマリエリの親しい友人だったリオの若い牧師は、空港でその凶報を受け取り、泣きながら、講演には行けないと電話してきたとのことでした。

会場全体は一遍に深い悲しみと憤りに包まれました。それでもいのちの光を見失うまいと、講師たちの語る言葉に耳を傾けました。

マリエリ・フランコは、リオ市でも暴力沙汰で有名なファヴェーラ（貧困地区）で生まれ、育ち、18 歳までその地区の女子たちが通常たどる道を歩き、十代で妊娠。けれどそこから脱出して大学受験を目指して勉強し始めます。19 歳で娘を出産した後も勉強を続け、リオのカトリック大学で社会学を学びながら、ファヴェーラの住人の生活向上、特に黒人や女性、LGBTの人たちの人権擁護、子供たちの教育環境改善を目指す活動を続けました。大学卒業後は連邦大学で行政学の修士課程を修め、2016年にリオ市の市議会議員に立候補して、当選します。唯一の黒人議員で、社会の弱い立場の人々の生活保障や安全のために働き、リオ市政に連邦軍が介入してから多くの犠牲者が出ていることを批判して、果敢に抗議を続けていたのです。

その事件後、彼女の死を悼むメッセージや抗議文が数々出され、それらを読むにつけ、無念で無念で涙が滝のように流れて…生前の彼女を少しも知らなかったのに、彼女の死は一粒の麦となって確かに小さな宣教師の心にも落ちたのでした。再びサルバドールに戻ってきたいま「自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」というイエスの言葉を反芻しています。

### ☆宣教という愚かな手段によって

私たちヴァレリオ・シルヴァ教会の周辺地域も、リオのファヴェーラほどではないにせよ、劣悪な住環境です。子供たち、青年たちへの教育的文化的活動は皆無で、麻薬がらみの殺人事件が頻発します。その度に残念な思いに駆られ、教会の使命を果たさなければと強く感じるのです。それは福音宣教を言葉と実践行動を通して行うこと、地域に根差した、互いに助け合う信仰共同体の形成にほかなりません。その使命を教会が果たすために、私が日本から遣わされていることを、改めて深く受け取りなおしています。通常の合理的精神に従って考えるならば、言葉も十分に使いこなせない小さな者が単身で、どうしてこの地にとどまり続けるのかと思う方もおられるでしょう。

使徒パウロによれば、人の知恵知識によっては、人は神を知ることができない。そこで神は宣教という愚かな(=気が変になったような、常軌を逸した)手段を用いて信じる者を救おうとされる、十字架につけられたキリストこそが神の知恵なのだということです。(Iコリント1,21)この務めに召し出されている自分の幸いを思い、皆さんのお祈りに支えられながら今後も歩み続けていきたいと思えます。

なお、任期はあと3年更新されるように世界宣教委員会に願い出てきました。9月初めに会議が開かれ、そこで審議される予定です。

### 会堂建設プロジェクトの新案について

次号の会報で詳細にご紹介したいと思います。引き続き建築献金にご協力を、どうぞよろしく願います。

## 「殉教者の後ろ姿を見つめて」

中沢 譲 (事務局)

小井沼眞樹子宣教師に説教奉仕 (6月3日) をお願いした。説教題は「宣教の愚かさに生きる」(Iコリント1:18-25)であった。

この日の説教が、マリエル・フランコ暗殺事件(2018年3月14日)から強く影響を受けたものであることを、説教者は冒頭で説明された。マリエル・フランコとは、リオデジャネイロの人権派市議員である。黒人女性のシングルマザーで、スラム出身者であることを公表し、その守り手であり代表であることを訴えて当選した人物だ。同性愛者であることもカミングアウトしていた。その人物が車で移動中のところを、運転手と一緒に射殺された。

その事件を身近に感じつつ、説教者はパウロ神学の背後にあるものに注目した。パウロは熱心なユダヤ教徒であったがゆえに、ステファノの殺害事件を承認していたが、回心後、その事が彼に重くのしかかっていた、と説教者は見る。彼の十字架の神学は、殉教者の死を見つめたところに根幹があるというのだ。そのパウロの言葉に慰められつつ、「宣教という愚かさ」への理解を深めたというのが、説教の主旨であったように思う。

中南米には無数の殉教者の列がある。その一人、オスカル・ロメロ大司教(エルサルバドル・1980)もまた、パウロの十字架の神学を心にとめ、「私たちがキリストから逃れ、苦しみを退けることがあってはならない。逆に、その受難を受け入れるべき」と語っている。先にエルサルバドルで殉教した6名の司祭たちのことを心に留め、貧困の中に置かれた民の側に立ち続け、そして暗殺された。マリエル・フランコが立ち上がったのも、銃撃で死亡した友人の死がきっかけだったという。彼女もまた、死を覚悟していたのだと思う。

イエスの十字架の死を告げ知らされた者は人生を新しくされる。私自身に起こったことを顧みつつ、そのことを思う。フランコ氏の死を、小井沼宣教師自身はどのように受け止められ、今後を歩まれるのかと、気になる説教であった。

※マリエル・フランコ事件は、アムネスティのホームページから知ることができる。

## ～ある時ふっと～

H. Y (横浜港南台教会員)

鈴なりの梅の実の周りを、六月の光と影が遊んでいるような主の日の朝、いつもより早めに目が覚めた。今日は久々に眞樹子先生のお説教が聞ける日だ。

今年に入って自分の生活の中で何故か「眞樹子先生ならこんな時どうなさっていたらどうか」と、幾度か思い起こす事があった。

初めて洋光台のお宅に伺ったのは1985年頃であったか?その頃3人の坊ちゃんの子育て中であり、お母様の看病をなさっていた。教会にいらっしやれないお母様の為聖餐式をなさる秋吉牧師と今井俊子姉にくっついて伺った。当時お母様は寝たきりで、頻繁に痰の除去が必要でいらした。眞樹子先生はその処置をこともなげになさり、現実の厳しさにもかかわらずその場の雰囲気は穏やかで喜びに満ちていた。この時のことは、私にとっては衝撃であった。その後も先生のダイナミックな生き様には、啓示を与えられることばかりだ。

ご存知の向きもあろうが、数学者岡潔は、このようなことを書いている。『過去なしに出し抜けに存在する人というものはない。その人とはその人の過去のことである。その過去のエキシ化が情緒である』と。(ここでは情緒を心の彩りや輝きや動きと捉えている)。この言葉が目に入った時もまた、眞樹子先生の顔が浮かんだ。今回のご帰国の報告会や礼拝説教の中で触れられた内容を反芻するにつけ、その視点からは、先生ならではの信仰の深さを感じずにはいられなかった。

マリエル・フランコさんの死を通して、どうしようもない社会状況があることと、対極にカーニバルを楽しむブラジルの人々の逞しさ・大らかさとの幅を、語られた。宣教師としては暗中模索の只中にあるとの思いを率直に語りつつ、「宣教師は、出来ることを何でもやります」と頑張られている。私たちは今回もそれぞれに、地球の向こう側で生きる人々への思いを再考した。続けてサンバのリズムに乗れても乗れなくても、480番(新しい時をめざして)を、一生懸命歌った。礼拝の締めくくりは、眞樹子先生の力強いポルトガル語での祝祷を頂いた。

「どうぞ気をつけて行ってください。私たちもいっぱい祈ります!!」

小井沼眞樹子宣教師と共に歩む会会計報告(省略)

2017.12.1～2018.6.30

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
会費・特別献金		支援金	
利息		海外保険	
		事務費	
		振込手数料	
		会堂使用料	
		集会費	
小 計		小 計	
前月より繰越		次月へ繰越(通常)	
合 計		合 計	

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
会堂建築献金		支援金	
		振込手数料	
小 計		小計	
前月繰越金		次月繰越金	
合 計		合 計	

年会費・特別献金 献金者名 (敬称略・順不同) 2017.12.1～2018.6.30

献金者氏名省略(86名)

会堂建築献金者名 (敬称略・順不同)

献金者氏名省略(31名)

編 集 後 記

M. R (横浜港南台教会員)

眞樹子先生の語られる聖書のみ言葉は、いつも心に響きます。言葉の壁、異なる文化の中、ご苦勞も多いことかと思われませんが、地域の方々と「ためにではなく、共に」歩んでおられる姿に感動します。

今回の報告会では、ブラジルの抱える社会問題について深く考えさせられました。少数の権力者に支配され、貧富の差の多いこと等、カーニバルはただ賑やか

なお祭りではなく、民衆の社会批判のパレードなのですね。

黒人女性議員マリエル・フランコ氏の暗殺に心が痛みます。このブラジル民衆の叫びを神様どうぞお聞き入れください。

先生は「私の使命は未だ終わらない」と任期をあと3年更新されるとのこと、上よりの御導きとご健康を心よりお祈り申し上げます。「お孫さん誕生」嬉しいニュースです。健やかな成長を祈ります。